

新規事業採択時評価結果（平成18年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業の概要

事業名	一般国道180号南部バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	鳥取県
起終点	自：鳥取県西伯郡南部町阿賀 至：鳥取県米子市吉谷	延長	4.2 km		
<p>事業概要</p> <p>一般国道180号は、岡山県岡山市を起点とし鳥取県米子市を経由し島根県松江市へ至る、延長約200kmの山陰・山陽地方を結ぶ幹線道路である。</p> <p>南部バイパスは、一般国道180号米子バイパス及び、山陰自動車道（一般国道9号米子道路）と一体となつて、広域交通ネットワークを形成する延長4.2kmの2車線バイパスである。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>南部バイパスは、現道部の線形不良解消及び人家連担等による渋滞や事故の緩和を図るとともに、開発事業支援（原工業団地拡張計画、宅地開発計画）や生活圏中心都市（米子市）へのアクセス向上等の観点から、早急にバイパス整備を行う必要がある。</p>					
全体事業費	4.2億円	計画交通量	9,000台/日		
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見

市町村合併（西伯町・会見町 H16.10.1合併）に伴う南部町の南部町まちづくり計画「交流基盤の整備」に、本事業の促進が位置付けられている。

山陰自動車道及び山陽地域への基幹ルートとして、日常生活はもとより、沿線宅地開発、工業活動支援、観光活性化等、あらゆる社会経済活動に寄与する本事業に対し、南部町から強い要望がある。

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている。

円滑な事業執行の環境：地元南部町の協力推進体制が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.5	総費用 36億円 （事業費：32億円 維持管理費：4億円）	総便益 56億円 （走行時間短縮便益：44億円 走行費用減少便益：7億円 交通事故減少便益：5億円）	基準年 平成17年		
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.4	（交通量-10%）	B/C=1.7	（交通量+10%）	
		事業費変動	B/C=1.7	（事業費-10%）	B/C=1.4	（事業費+10%）	
		事業期間変動	B/C=1.7	（事業期間-20%）	B/C=1.4	（事業期間+20%）	
事業の影響	評価項目	評価	根拠				
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策		<p>人家連担による市街地の慢性的な渋滞を解消する。</p> <p>渋滞損失時間の改善 約48万人時/年 約37万人時/年</p> <p>1kmあたり渋滞損失時間 約3.7万人時/年km（現況）</p> <p>鳥取県平均：約0.9万人時/年km（約4.1倍）</p> <p>全国平均：約2.0万人時/年km（約1.9倍）</p> <p>渋滞度曲線 鳥取県内センサス区間の上位2割に含まれる。</p> <p>その他の特徴 一般国道180号の県内区間中、第1位の渋滞損失時間及び混雑度。</p> <p>また、一般国道180号米子バイパスと一体で米子市街地に集中する交通の分散化を図る。（主要渋滞ポイント：美吉橋交差点渋滞緩和）</p>			
		事故対策		<p>線形不良や人家連担により多発している事故を解消する。</p> <p>死傷事故率 約75件/億台キロ（現況）（死傷事故率比（県内平均比）1.48（現況））</p> <p>鳥取県平均：約50.3件/億台キロ（約1.5倍）</p> <p>事故率曲線 区間に事故率比2以上の区間が存在：阿賀地区(2.58)、福成交差点(2.85)</p> <p>鳥取県内区間の上位2割に含まれる。</p> <p>その他の特徴 一般国道180号の県内区間中、第1位の事故件数及び死傷事故率。</p>			
		歩行空間		不連続で狭小な歩道しかない現道区間からの通過交通の排除により、現道の歩行空間の安全性が向上する。（通学路対策）			
	社会全体への影響	住民生活		高次医療施設へのアクセス向上（3次医療施設：鳥取大学医学部付属病院（米子市））。（南部町～鳥取大学医学部付属病院の所要時間 8分）			
		地域経済		原工業団地拡張計画や宅地開発（ファストかつ清水川拡張計画）の支援、米子市周辺から緑水湖周辺地域（南部町自然休養村等）への余暇活動の活性化が図られる。			
		災害		1次緊急輸送道路の機能強化が図られる。（現道部 幅員狭小(5.5m)区間、老朽橋(S36架橋)の解消）			
環境			CO2の年間排出量が148t/年削減される。通過交通の排除による渋滞の軽減により、沿道環境の改善が図られる。				
	地域社会		生活圏中心都市（米子市）との連携強化に寄与する。				
事業実施環境			市町村合併した南部町の南部町まちづくり計画「交流基盤の整備」に、本事業の促進が位置付けられており、用地取得における南部町の協力等、円滑な事業執行環境が整っている。				

採択の理由

費用対便益が1.5と、便益が費用を上回っているとともに、地元推進体制も整っていることから、事業採択の前提条件が確認できる。また、当該事業箇所の現況渋滞損失時間は大きく渋滞対策の必要性があり、事業実施による改善効果も大きい。現道部の問題（線形不良、狭小幅員等）の解消も含め、住民生活、地域経済等に対する改善効果が大きいと判断できる。

以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。